

Wings of technology

and spirit of innovation.

That's our DNA driving our global success.



株主通信

2009年4月1日～2009年9月30日

株主の皆様へ

“株主通信”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期の経済情勢は、昨年秋以降、金融危機の影響が実体経済に波及し、世界経済の不振が継続するなか、中国をはじめ各国での景気刺激策の効果もあり、アジアでは景気回復の動きが見られましたが、米国、欧州では依然景気の低迷が続きました。国内経済においても、在庫調整の進展やアジア向けを中心とする輸出の回復などにより、生産は持ち直しつつあるものの、設備投資が減少し、雇用情勢も一段と悪化するなど、企業を取り巻く経済環境は総じて厳しい状況が続きました。

このような状況の下、当社グループは5月11日に発表しました平成21年度の業績予想値の確実な達成を目指すと共に、非常時対応として、設備投資の圧縮、在庫削減の強化、徹底的なコスト削減などを実施し、可能な限りの収益の底上げに取り組んでまいりました。

この結果、当中間期における連結業績は、当初予想は上回ったものの減収減益でありました。

今後の経済情勢につきましては、世界経済は緩やかな回復が見込まれるものの、各国における景気刺激策の一巡による景気減速も懸念され、需要、原燃料価格、為替等先行き不透明な要因もありますことから、事業環境は予断を許さない厳しい状況が続くものと予想されます。

こうした情勢を踏まえ、株主の皆様にはまことに申し訳なく存じますが、中間配当を見送らせていただきたく、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

また、期末配当につきましては、事業環境に不透明な要因が多いことから、現在未定としておりますが、非常時対応の徹底により、可能な限り収益を底上げし、株主の皆様へ還元してまいりたい所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **田村浩章**



CONTENTS

株主の皆様へ	1
中間連結業績ハイライト	2
部門別概況(連結)	3
<Close-Up UBE>医薬事業	4
トピックス	5
決算の概況(連結)	7
決算の概況(単独)	9
会社情報	9
株式情報	10

マネジメント・チーム (2009年9月30日現在)



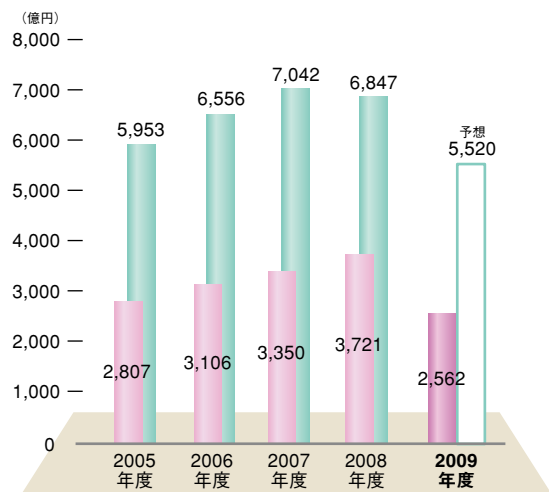
後列左から：高橋信行専務執行役員、元田充隆取締役*、松本善臣取締役*、
紀平浩二専務執行役員、関谷一眞専務執行役員
前列左から：竹下道夫取締役、岡田和彦代表取締役、田村浩章代表取締役社長、
千葉泰久代表取締役、古川陽道取締役、梅津誠取締役

*社外取締役

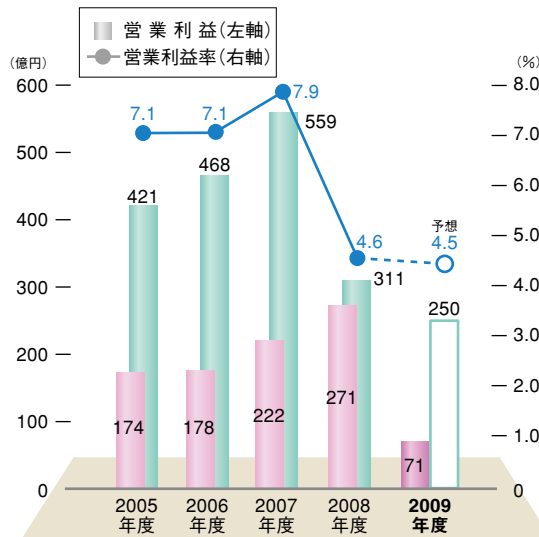
中間連結業績ハイライト

■ 通期 ■ 中間期 ● 通期 ● 中間期

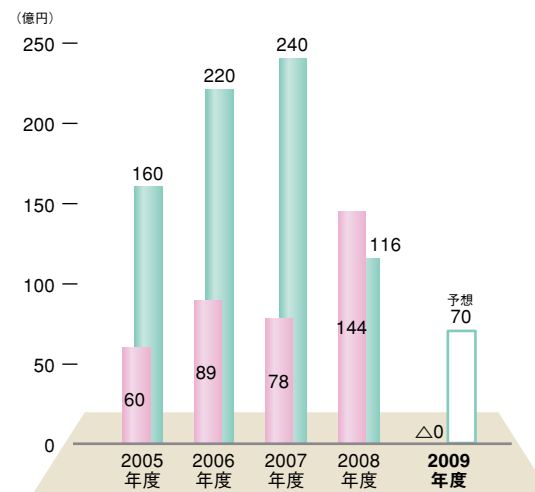
売上高



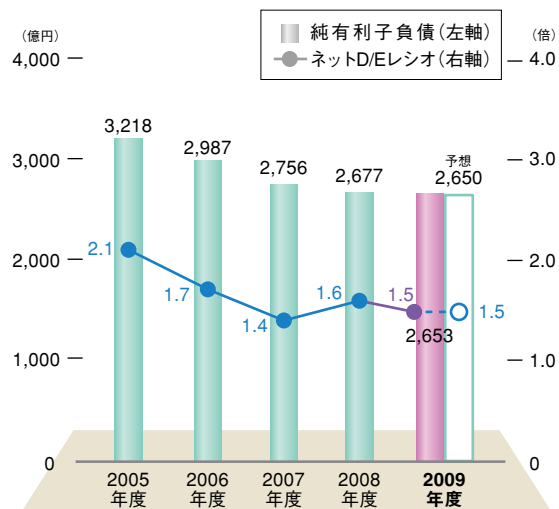
営業利益と売上高営業利益率



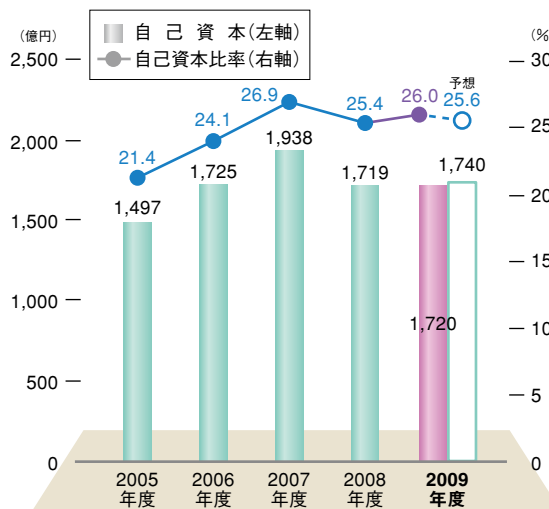
中間(当期)純利益



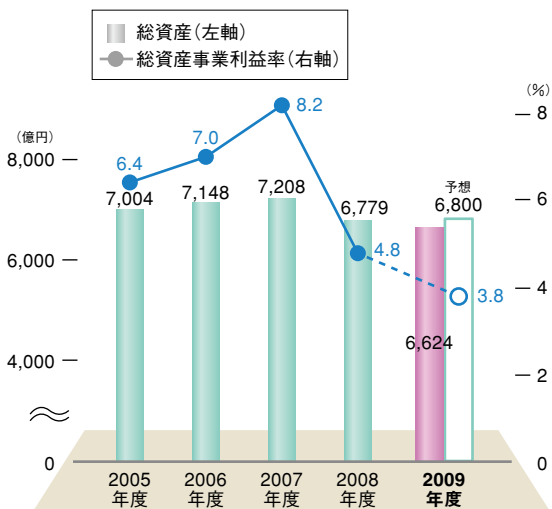
純有利子負債とネットD/Eレシオ*



自己資本と自己資本比率*



総資産と総資産事業利益率(ROA)*













* ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 (= 有利子負債 - 現金・現金同等物) / 自己資本

* 自己資本比率 = 自己資本 (= 純資産 - 新株予約権 - 少数株主持分) / 総資産

* 総資産事業利益率(ROA) = 事業利益 (= 営業利益 + 受取利息・受取配当金 + 持分法投資損益) / 総資産

部門別概況(連結)

部門	主要商品	売上高比率	部門別概況
化成品・樹脂 売上高 715億円 (前中間期比43.8%減) 営業利益 △19億円 (前中間期比—)	 <ul style="list-style-type: none"> ●合成ゴム ●カプロラクタムチェーン ●カプロラクタム ●ナイロン樹脂 ●工業薬品 	 <p>28%</p>	<p>カプロラクタム、ナイロン樹脂、ポリブタジエン(合成ゴム)、工業薬品の出荷は、いずれも昨年第3四半期以降の急激な減少からは回復してまいりましたが、高水準で推移した前年同期比では低調でした。スプレッド(製品価格と原料価格の値差)についても、需給の悪化を反映して、前年同期に比べ大幅に縮小しました。</p>
機能品・ファイン 売上高 357億円 (前中間期比26.2%減) 営業利益 35億円 (前中間期比39.0%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ●機能性材料 ●ポリイミド ●電池材料(電解液、セパレーター) ●半導体関連・電子材料 ●高純度化学薬品、光通信関連 ●ガス分離膜 ●セラミックス ●通信部品 ●ファインケミカル ●医薬品(原体、中間体) 	 <p>14%</p>	<p>昨年秋以降の景気後退で急減した需要は第1四半期から総じて緩やかな回復に転じたものの未だ低調で、ポリイミド製品、半導体向け高純度化学薬品、リチウムイオン電池用の電解液、ガス分離膜、ファインケミカル製品の出荷は前年同期を下回りました。リチウムイオン電池用セパレーター及び医薬品原体・中間体の出荷は好調でした。</p>
建設資材 売上高 878億円 (前中間期比16.8%減) 営業利益 14億円 (前中間期比62.8%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ●セメント・生コン ●資源リサイクル ●石灰石 ●建材関連製品 (セルフレベリング材、左官材、防水材) ●カルシア・マグネシア ●機能性無機材料 	 <p>34%</p>	<p>セメント・生コン、建材製品の出荷は、企業の設備投資抑制や住宅着工をはじめとする建設需要の落ち込みにより低調でした。各種廃棄物の原燃料へのリサイクル利用も産業活動や建設需要低迷の影響を受け、また、カルシア・マグネシア製品の出荷も鉄鋼業界の減産等の影響が大きく低調でした。</p>
機械・金属成形 売上高 384億円 (前中間期比35.6%減) 営業利益 14億円 (前中間期比38.9%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ●機械 ●成形機 (ダイカストマシン、射出成形機) ●産機(運搬機、ミル、破砕機) ●橋梁・鉄構 ●製鋼品 ●アルミホイール 	 <p>15%</p>	<p>機械事業は、海外の資源関連産業向けを中心とした窯業機や縦型ミルなど各種産業機械の出荷は好調でしたが、成形機の出荷は自動車関連設備の投資抑制の影響を大きく受けたため低調でした。受注も各種産業機械は高水準を維持しておりますが、成形機は大幅に減少しました。製鋼品は出荷の減少はあったものの、原価低減効果等により業績は堅調に推移しました。</p> <p>アルミホイール事業は、自動車販売の低迷により出荷は低調でした。</p>
エネルギー・環境 売上高 210億円 (前中間期比28.3%減) 営業利益 22億円 (前中間期比46.9%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ●石炭 ●電力 	 <p>8%</p>	<p>販売炭の出荷、コールセンター(石炭貯蔵場)の取扱い数量とも、主要顧客である電力、化学、繊維等向けの需要低迷により低調でした。電力卸供給事業においては定期修理の実施により、前年同期に比べ稼働率及び電力供給量が低下し、補修費も増加しました。</p>

(注)その他の事業を割愛しているため、売上高比率の合計は100%になっておりません。

クローズアップ <Close-Up UBE> 医薬事業

UBEから生まれた新薬「エフィエント(一般名:プラスグレル)」が、欧州に続いて米国でも2009年7月に販売承認を得て、販売開始されました。既に販売されている自社医薬品「タリオン®」、「カルブロック®」とともに売上拡大が見込まれています。

一方で、受託医薬ビジネスも着実に成長を続けています。

化学会社のUBEが、医薬品の研究開発を手がけて30年、受託製造に取り組んで20年。

自社医薬と受託医薬のハイブリッド化により、医薬事業をUBEの化学事業の3つ目の柱として早期に確立すべく取り組んでいます。

1. 自社医薬

長い歴史を持つ合成化学技術、大手製薬メーカーとの密接な連携による共同研究開発と独自の創薬戦略により、効率よく優れた薬を創出しています。

これまで、呼吸器、代謝/循環、抗炎症など幅広い領域で研究を手がけ、2000年に「タリオン®」、2003年に「カルブロッ

ク®」、そして2009年に「エフィエント」と、相次いで新薬を世の中に送り出しました。

現在は、呼吸器分野、特にCOPD(慢性閉塞性肺疾患)や喘息の薬の開発に注力しています。

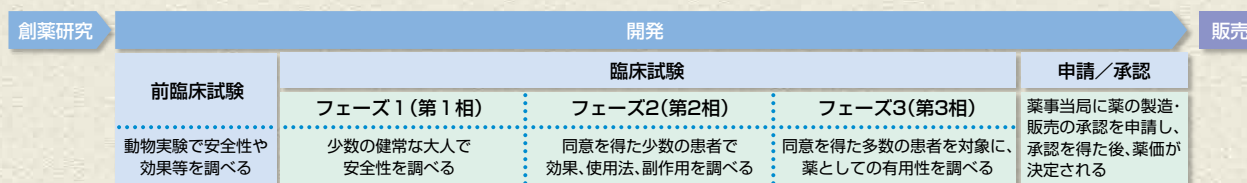
自社医薬の開発パイプライン

商品名(開発コード)	薬効分類	前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請/承認	販売
タリオン® 一般名:ベボタスチンベシル酸塩 販 売:田辺三菱製薬(株)	抗アレルギー剤					● 点眼薬 (米国・承認)	● アレルギー性鼻炎、皮膚疾患 (日本、韓国)
カルブロック® 一般名:アゼルニジピン 販 売:第一三共(株)	血圧降下剤					● オルメサルタンとの配合剤 (日本・申請中)	● 高血圧症 (日本)
エフィエント 一般名:プラスグレル 販 売:第一三共(株)、 米国・イーライリリー社	抗血小板剤			● (日本)	● ACS-MM*1 (米国、欧州)		● ACS-PCI*2 (米国、欧州他)
(DE-104) 共同研究開発:参天製薬(株)	緑内障治療薬		● (米国)	● (日本)			
(UR-5269)	抗リウマチ薬	●					
(UR-5908)	COPD治療薬	●					

*1 ACS-MM: 薬剤治療を受けている急性冠症候群(ACS)患者の治療

*2 ACS-PCI: 経皮的冠動脈形成術(PCI)を受けている急性冠症候群(ACS)患者の治療

新薬開発の流れ



2. 受託医薬

GMP*3対応の医薬品製造設備を有し、自社医薬の原体製造を行うほか、工業化プロセス開発や化学品製造に長年携わってきた経験と実績を活かし、国内外の製薬メーカーから新薬の原体*4・中間体*5について製造を受託し、供給しています。

*3 GMP (Good Manufacturing Practice): 安全な医薬品を供給するために定められた、医薬品の製造管理、品質管理規則

*4 原 体: 医薬品の有効成分である化合物

*5 中間体: 原体製造の途中段階の化合物



医薬品製造設備(宇部ケミカル工場)

●タリオン®は田辺三菱製薬(株)の登録商標です。
●カルブロック®は第一三共(株)の登録商標です。
●エフィエントはイーライリリー社の商標です。

トピックス

2009年度中間期トピックス一覧

- 2009年 4月 窒化珪素の増産設備が完工
- 4月 第6期機能膜製造設備が営業運転を開始 **Topics 1**
- 4月 宇部マテリアルズ(株)が、ビル排水槽の悪臭防止対策用として酸化マグネシウム*¹を販売開始
- 5月 中国・南通市の合併会社「台橡宇部(南通)化学工業有限公司」のポリブタジエンラバー (BR)工場が営業運転を開始
- 6月 (財)宇部興産学術振興財団が設立50周年記念式典を開催 **Topics 2**
- 6月 タイ国でのカプロラクタム製造工程における亜酸化窒素(N₂O)*²削減で国連からCDM*³登録の承認を取得 **Topics 3**
- 6月 タイ国にファインケミカルの製造販売会社を設立し、1,6ヘキサンジオール工場の建設に着手
- 7月 地球温暖化対策への取り組み強化として「地球温暖化対策推進室」を設置
- 7月 第一三共(株)と共同で創製した抗血小板剤「エフィエント」が米国食品医薬品庁(FDA)の承認を取得
- 7月 アルミホイール事業を分社化し、宇部興産ホイール(株)が発足 **Topics 4**
- 8月 「UBEグループCSR報告書2009」を発行 **Topics 5**
- 10月 グループ内に分散する機能性無機材料事業の連携と効率的な事業化推進を促進するため「UBEグループ機能性無機材料事業化推進室」を設立

Topics 1

機能品・ファイン

第6期機能膜製造設備が営業運転を開始

第6期機能膜製造設備



リチウムイオン電池用セパレーター「ユーポア®」

当社宇部ケミカル工場に3月完工した第6期機能膜製造設備が、4月から営業運転を開始し、リチウムイオン電池用セパレーターの需要拡大を受けてフル稼働を続けています。リチウムイオン電池市場は従来の携帯電話やパソコンなどの携帯機器向けに加えて、ハイブリッド自動車などの新たな用途により、更なる成長が期待されています。当社はセパレーターや電解液といった電池材料を成長戦略事業の柱の一つとして注力しています。



*1 酸化マグネシウム 酸化マグネシウムは水に溶けて水素イオン濃度をアルカリ性にする作用があります。ビルの排水槽の悪臭は、硫化水素(酸性)の発生に伴うもので、酸化マグネシウムによる中和で悪臭を抑制する効果が得られます。

Topics 2

全社

(財)宇部興産学術振興財団が設立50周年記念式典を開催



宇部全日空ホテルで開催された記念式典

(財)宇部興産学術振興財団が今年で50周年を迎えました。同財団は、宇部興産初代会長である渡辺剛二氏の遺志を継いで設立された渡辺記念学術奨励会が前身で、学術研究を推奨し、研究施設の拡充を図るとともに学術研究を志す者を助成することで、学術文化の発展に寄与することを目的としています。50周年の節目を迎え、運営をさらに強化・充実させ、学術研究の助成を通じて社会に貢献してまいります。

Topics 3

化成品・樹脂

タイ国でのカプロラクタム製造工程における 亜酸化窒素(N₂O)削減で国連からCDM登録の承認を取得



TCL社のN₂O分解装置

当社が三菱商事(株)と共同でタイ国のTCL(タイ・カプロラクタム)社で推進している亜酸化窒素(N₂O)削減CDMプロジェクトが、日本政府とタイ政府の承認の後、最終的に国連に登録されました。このプロジェクトでは、カプロラクタム製造工程で排出されるN₂Oを新たに設置した触媒式分解プラントにより削減し、2009年6月から2012年12月までで53万トン(CO₂換算)の排出権を獲得する予定です。

*2 亜酸化窒素(N₂O) 地球温暖化に影響のある温室効果ガスの一種で、ナイロン6の原料であるカプロラクタムを製造する工程から副生ガスとして発生します。

Topics 4

機械・金属成形

アルミホイール事業を分社化し、宇部興産ホイール(株)が発足



宇部興産ホイール(株)が製造販売するアルミホイール

当社は、アルミホイール事業を分社化し、宇部興産ホイール(株)を設立しました。UBEのアルミホイールは、強靱で軽量という特性を持ち、ハイブリッド車や大型高級車用ホイールとして高い評価を得ています。自動車の市場環境が激変する中で、事業特性に合致した経営を目指し、競争力の強化と利益体質を確立してまいります。

Topics 5

全社

「UBEグループCSR報告書2009」を発行



UBEグループCSR報告書2009

すべてのステークホルダーとの「共生」を目指すUBEグループは、事業を通じて社会から期待され、必要とされるCSR活動を推進しています。

「UBEグループCSR報告書2009」はそのような等身大のUBEグループをご紹介します。

本報告書は、当社ホームページから資料請求、またはダウンロードしていただけます。

<http://www.ube-ind.co.jp/japanese/ir/shiryoku.htm>

(お問合せ:CSR推進部 Tel:03-5419-6118 Fax:03-5419-6237)

*3 CDM(Clean Development Mechanism) クリーン開発メカニズムのことで、京都議定書に定める温室効果ガス削減プロジェクトの手法です。削減義務を負う日本の企業が、削減義務を負わないタイ国で温室効果ガスの排出量削減事業を実施すれば、国連CDM理事会から排出権を取得することができます。

決算の概況(連結)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当中間期 (2009年9月30日現在)
資産の部		
流動資産 ◆ POINT 1	277,553	262,746
現金及び預金	39,343	37,648
受取手形及び売掛金	124,049	122,174
たな卸資産	92,612	80,220
その他	21,549	22,704
固定資産	400,379	399,660
有形固定資産	332,418	331,498
無形固定資産	4,158	4,257
投資その他の資産	63,803	63,905
繰延資産	54	44
資産合計	677,986	662,450

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当中間期 (2009年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	269,025	247,358
支払手形及び買掛金	80,304	72,826
短期借入金	130,146	120,501
1年内償還予定の社債	80	580
その他	58,495	53,451
固定負債	214,238	220,575
社債	16,000	15,160
長期借入金	159,810	165,624
退職給付引当金	7,213	7,216
その他	31,215	32,575
負債合計 ◆ POINT 2	483,263	467,933
純資産の部		
株主資本	183,762	179,544
資本金	58,435	58,435
資本剰余金	28,440	28,439
利益剰余金	97,511	93,308
自己株式	△624	△638
評価・換算差額等	△11,816	△7,527
新株予約権	250	287
少数株主持分	22,527	22,213
純資産合計 ◆ POINT 3	194,723	194,517
負債・純資産合計	677,986	662,450

POINT 1 流動資産

たな卸資産が123億円、受取手形及び売掛金が18億円減少したことなどにより、前期末比148億円(5.3%)減少しました。

POINT 2 負債

支払手形及び買掛金が74億円、有利子負債が40億円減少したことなどにより、前期末比153億円(3.2%)減少しました。

POINT 3 純資産

前期末に比べ円安になったことに伴い為替換算調整勘定が39億円増加しましたが、剰余金の配当等のため利益剰余金が42億円減少したことなどにより、前期末比2億円(0.1%)減少しました。

POINT 4 特別損失

固定資産処分損21億円などを計上しました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

主な科目	前中間期	当中間期
	(自 2008年4月1日 至 2008年9月30日)	(自 2009年4月1日 至 2009年9月30日)
売上高	372,124	256,279
売上原価	302,468	213,390
売上総利益	69,656	42,889
販売費及び一般管理費	42,524	35,766
営業利益	27,132	7,123
営業外収益	4,117	2,907
営業外費用	7,696	7,519
経常利益	23,553	2,511
特別利益	353	175
特別損失	718	2,280
税金等調整前中間純利益	23,188	406
法人税等	8,345	519
少数株主利益又は損失(△)	398	△39
中間純利益又は損失(△)	14,445	△74

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

主な科目	前中間期	当中間期
	(自 2008年4月1日 至 2008年9月30日)	(自 2009年4月1日 至 2009年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	32,163	25,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,579	△17,404
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,800	△10,147
現金及び現金同等物に係る換算差額	△893	298
現金及び現金同等物の増減額	1,891	△1,670
現金及び現金同等物の期首残高	25,082	39,131
現金及び現金同等物の中間期末残高	26,973	37,461

連結株主資本等変動計算書 (自 2009年4月1日 至 2009年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	58,435	28,440	97,511	△624	183,762	△11,816	250	22,527	194,723
中間期中の変動額									
剰余金の配当			△4,031		△4,031				△4,031
中間純利益			△74		△74				△74
自己株式の取得				△17	△17				△17
自己株式の処分		△1		3	2				2
持分法の適用範囲の変動			△98		△98				△98
株主資本以外の項目の中間期中の変動額(純額)						4,289	37	△314	4,012
中間期中の変動額合計		△1	△4,203	△14	△4,218	4,289	37	△314	△206
中間期末残高	58,435	28,439	93,308	△638	179,544	△7,527	287	22,213	194,517

決算の概況(単独)

会社情報 (2009年9月30日現在)

貸借対照表

(単位：百万円)

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当中間期 (2009年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	136,643	130,500
現金及び預金	24,633	21,674
受取手形及び売掛金	52,092	51,739
たな卸資産	41,625	34,274
その他	18,291	22,812
固定資産	321,090	320,312
有形固定資産	201,858	193,120
無形固定資産	2,790	2,748
投資その他の資産	116,441	124,443
繰延資産	49	41
資産合計	457,784	450,854
負債の部		
流動負債	166,969	158,367
支払手形及び買掛金	37,211	32,203
短期借入金	89,426	85,727
その他	40,330	40,436
固定負債	165,229	171,754
社債	15,000	15,000
長期借入金	144,647	149,576
その他	5,582	7,178
負債合計	332,198	330,122
純資産の部		
株主資本	124,484	119,335
資本金	58,434	58,434
資本剰余金	29,226	29,225
利益剰余金	37,247	32,113
自己株式	△424	△437
評価・換算差額等	851	1,109
新株予約権	250	286
純資産合計	125,585	120,732
負債・純資産合計	457,784	450,854

損益計算書

(単位：百万円)

主な科目	前中間期 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)	当中間期 (自2009年4月1日 至2009年9月30日)
売上高	181,960	116,926
売上原価	146,923	99,515
売上総利益	35,037	17,410
販売費及び一般管理費	20,073	17,711
営業利益又は損失(△)	14,963	△300
営業外収益	5,579	4,727
営業外費用	5,498	5,702
経常利益又は損失(△)	15,044	△1,275
特別利益	54	60
特別損失	418	2,241
税引前中間純利益又は損失(△)	14,680	△3,455
法人税等	4,874	△2,353
中間純利益又は損失(△)	9,806	△1,102

会社概要

設立 1942(昭和17)年3月
 資本金 58,434百万円
 従業員数 3,612人(連結11,406人)
 連結対象会社 94社
 (連結子会社67社、持分法適用会社27社)
 ホームページアドレス <http://www.ube.co.jp>

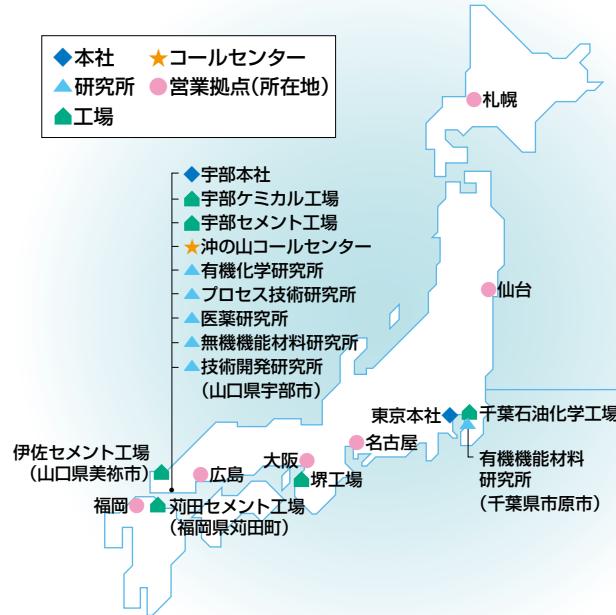
役員

(注)*は取締役との兼務を示しています。

代表取締役社長	田村 浩章	社長執行役員*	田村 浩章
代表取締役	千葉 泰久	副社長執行役員*	千葉 泰久
代表取締役	岡田 和彦	副社長執行役員*	岡田 和彦
取締役	古川 陽道	専務執行役員	紀平 浩二
取締役	竹下 道夫	専務執行役員	高橋 信行
取締役	梅津 誠	専務執行役員*	古川 陽道
社外取締役	松本 善臣	専務執行役員	関谷 一真
社外取締役	元田 充隆	専務執行役員*	竹下 道夫
		常務執行役員	チャルニアピットク
常任監査役(常勤)	櫻部 正樹	常務執行役員	山本 謙
常任監査役(常勤)	山中 和郎	常務執行役員*	梅津 誠
常任監査役(常勤)	藤岡 啓介	常務執行役員	杉下 秀幸
監査役	藤田 光博	常務執行役員	渡邊 史信
		執行役員	妙中 信之
		執行役員	久保田 隆昌
		執行役員	杉瀬 良二
		執行役員	六角 朋生
		執行役員	松波 正
		執行役員	大原 真二
		執行役員	上田 淳
		執行役員	木内 政行
		執行役員	糸口 栄一
		執行役員	平井 雅典
		執行役員	三隅 淳一

主な事業所

国内拠点



部門別主要連結対象会社

化成系・樹脂部門	建設資材部門
宇部フィルム(株)	宇部興産海運(株)
タイ・シンセティック・ラバース社(タイ国)	大協企業(株)
宇部アンモニア工業(有)	萩森興産(株)
ウベ・ケミカル・ヨーロッパ社(スペイン)	ウベボード(株)
タイ・カプロラクタム社(タイ国)	宇部建設資材販売(株)
ウベ・ナイロン・タイランド社(タイ国)	(株)関東宇部ホールディングス
ウベ・エンジニアリング・プラスチック社(スペイン)	宇部マテリアルズ(株)
ウベ・ホンコン社(中国)	山石金属(株)
	宇部三菱セメント(株)*
機能系・ファイン部門	機械・金属成形部門
宇部日東化成(株)	宇部興産機械(株)
明和化成(株)	ウベ・マシナリー社(米国)
ユー・イー・エル(株)	宇部テクノエンジニア(株)
ウベ・アメリカ社(米国)	(株)宇部スチール
	(株)福島製作所
	宇部興産ホイール(株)
エネルギー・環境部門	その他の部門
宇部シーアンドエー(株)	ウベ・コーポレーション・ヨーロッパ社(スペイン)

*持分法適用会社

海外拠点 (主要な海外子会社の所在地)



株式の状況

発行可能株式総数 3,300,000,000株
 発行済株式の総数 1,007,777,530株 (自己株式1,387,476株を除く)
 株主数 84,437名

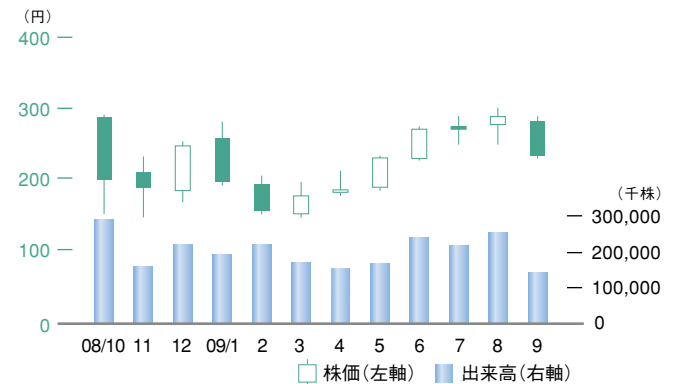
大株主

株主名	株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	102,651	10.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	71,289	7.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	38,596	3.83
日本生命保険相互会社	20,000	1.98
住友生命保険相互会社	20,000	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	17,516	1.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	15,000	1.49
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	14,640	1.45
エス エル オムコバス アカウント	12,487	1.24
株式会社みずほコーポレート銀行	12,487	1.24
農林中央金庫	12,374	1.23

配当金推移

1株当たり配当金	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
	2.0円	3.0円	4.0円	5.0円	4.0円	未定

株価及び出来高 (東京証券取引所)



Information

特別口座にご所有の株式の振替請求について

株券電子化移行時点で、証券会社等を通じて証券保管振替機構に預託されなかった株式につきましては、ご名義人のお名前で三菱UFJ信託銀行に開設いたしました特別口座にて管理されております。

特別口座の株式をお取引のある証券会社口座へお振替いただくことが可能となっておりますので、振替請求をご希望される株主様につきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行証券代行部(電話0120-232-711)へお申し出ください。

単元未満株式(当社では1,000株未満の株式)の買取・買増制度について

当社株式の市場取引は1,000株単位となっておりますので、単元未満株式をお持ちの株主様につきましては、端数となっております株式が整理できる買取・買増制度を設けております。証券会社等にお持ちの口座に単元未満株式がございます場合には、お取引証券会社等へお申し出ください。

証券会社等に口座をお持ちでない株主様につきましては、特別口座を開設して株数が記録されておりますので、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行証券代行部(電話0120-232-711)へお申し出ください。

買取請求とは 株主様がご所有の単元未満株式を、当社に対して時価で売却することができる手続きです。

買増請求とは 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて1単元(1,000株)となるように、当社に対して時価で単元未満株式の売り渡しを請求することができる手続きです。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日より翌年3月31日まで
- 定時株主総会開催時期 6月下旬
- 基準日
定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 公告の方法 電子公告
<http://www.ube.co.jp>
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同連絡先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)

【株式に関する手続きについて】

1. 単元未満株式の買取・買増、住所・氏名等のご変更、株式の口座振替請求、配当金受取方法の指定等のお申出先原則、株主様が口座を開設されているお取引証券会社等にて手続きをお取りください。
ただし、証券会社等に口座をお持ちでない株主様につきましては、特別口座を開設して株数が記録されておりますので、特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行証券代行部にて手続きをお取りください。
2. 未払配当金のお支払い、その他株式事務に関する一般的なお問合せ
株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問合せください。

宇部興産株式会社 ■ 東京本社 〒105-8449 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館
■ 宇部本社 〒755-8633 山口県宇部市大字小串1978-96

※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。
実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知おください。



文化庁登録第17298号の1



本書は、環境に配慮し適切に(持続可能に)管理された森林からの木材を使用し、塩素化合物の排出を最小限に抑えたECF(無塩素漂白)パルプから製造された用紙と、植物性大豆油インクを使用しています。